令和2年度　園評価書

園番号　42　　園名　折戸こども園

Ⅰ　経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている　B：概ねできている　C：あまりできていない　D：できていない）

1教育保育目標	2　重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
折戸大好き笑顔いっぱい元気な子	自分から意欲的に取り組もうとする	「なぜ？」「そうか」と試行錯誤して遊んでいる	子どもの疑問に保育者がすぐに応えを出さずに見守ったり、一緒に調べたりできるよう、興味を引き出す環境を意識することが、子どもが自ら考えたり試したりする姿につながっていった	A	A	・年長児（双子）が家にいるが、疑問をもつと「どうする？」「こうやったらいいんじゃない」等、意見を出し合う姿が見られる ・本日の日案を見ても配慮に「見守る」や「認める」が記入されていて、日々意識して関わっていることが伺える	失敗したからといって諦めずに取り組む姿が昨年度に比べて増えてきたと実感できる。それは保育者の子どもの姿を見取る力がついてきたため、なぜそうなったのかを理解し、声をかけたり別の環境を用意する等、関わることができているからだと思われる。もう1度やってみようと意欲的に取り組む姿につながっているのだと考える。今後も引き続き子どもと一緒に遊びを楽しむ中で、見取りを丁寧に行い関わっていく
		自分なりの方法で自分の気持ちを表現し、やりとりを楽しんでいる	発達に応じたやりとりをおさえた上で、安心して思いを出せる雰囲気作りをしたり、表現を見逃さずに関わっていくと自分から思いを表現しやりとりを楽むようになっていった	A	A		
		自分が納得するまで遊び続けている	「できた」「楽しい」等の気持ちを保育者や友達と共有したり、繰り返し遊べる環境を用意することで、納得するまで遊ぶ姿がある	A	A		

Ⅱ各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1　こども園における教育及び保育	(1)0才から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	「これをやりたい」という思いをもって遊びを楽しんでいる	前日の遊びの続きができるようにしておくことや、振り返りをすることで「これをやる！」という思いをもって、遊び始めるようになっていった	A	A	・登園時間が遅い子は活動が始まっていると思うが丁寧に受け入れようとしていることが伝わってくる。保護者支援は必要なこと。諦めないで継続していってほしい ・素材の提供については工夫の余地があるとのことなので続けていってほしい ・災害や不審者対応など訓練の課題が出てきた時、すぐに改善点を話し合うことはいいことだと思う。危機管理についてはこれでいいという事はないので引き続き行なっていくことが大事 ・手洗いや食器の置き方等が身に付いてきたということが評価として見えやすい ・ケース会議を毎月1回実施できていることはすごいこと。学校はケースの話し合いが必要な時に会議を設けているので、後手になってしまいがちだった ・要覧を見た時に様々な勤務の職員がいた。このような環境の中で大変だと思うがよくやっていると思う ・保護者の悩みは大きいほど黙ってしまうものであり、言ったとしてもほんの一部なこともある。少しの情報でも職員間で話題にして共通認識している所が良いと思う ・このような状況の中でも様々な体験ができたことは素晴らしい	子どもの実態をよく見て興味関心を捉え、「やりたい」と思えるような遊びの素材を考え提供していく。又、子どもの「やりたい」のサインや姿を見逃さず、保育者が見守ったり援助をしたり、再構成したりしながら関われるようにする
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	生活リズムを整え、安心して過ごしている	登園時間の差が大きいが、一人一人受け入れを丁寧に行うことで安心して過ごせるようにしている	B	A		保護者対応は信頼関係を大切にしながら肯定的に伝えるよう心がけていったが生活リズム等に変化を求めることには難しさを感じる部分も多かった。今後も諦めず日頃のコミュニケーションを大切にし丁寧な関わりをしていく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	遊びの変化に合わせた素材の提供をする	子どもの姿をよく見て興味関心を捉えたり、子どものつぶやきからヒントを得て素材を用意したり提供するタイミングを意識している。又、日々の保育の中で変化（遊び、季節）していくものに合わせて試行錯誤しながら行うようにしている	B	B		この遊びのどこに魅力を感じているのか、どうしたらその遊びが面白くなるのか、「もっと～したい」に繋がるのかを考え準備したり提供するタイミングを考えたりして実践していく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	ヒヤリハットや訓練での反省や課題から改善策を考え、実行する	問題点を話し合い、対応策を全職員で共有した。その後実践してみてどうだったのかを再検討している	B	B		会議の検討ばかりではなく、実際の保育の場ではどうなのかも意識し、職員の立ち位置や視線等、気付いたその時に声を掛け合い安全策をとっていくようにする
3保健管理・指導	(1)健康教育の充実	個人差に配慮しながら挨拶、睡眠、食事、清潔などが身につくよう丁寧に関わっている	自分でやろうとする姿を大切にし、気付けるような声かけをしたり、一緒に行ったりして保育者が見せていくことで手洗いの仕方や食器の置き方等、身に付いてきた	A	A		園では食事のマナー等、身に付けてほしいことを絵図で掲示し、毎日確認しながら積み重ねていく。このような姿をクラスだよりで知らせながら保護者と共に取り組めるようにする
4特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	ケース会議で情報を共有したり、支援方法を検討している	気になる姿を伝え合い共有する中で、サポートプランだけでなく、関わり方について分析や検討をしていくと、様々な意見や支援方法が出て保育に活かすことができた	A	A		検討後、支援方法が適切だったかを確認する所まで実践できるようになってきた。引き続き行っていく
5組織運営	(1)組織体制の充実	分掌を報・連・相をしながら責任をもって行う	様々な企画や準備が期日間際になることが多かったが、少しずつ計画的に進められるようになってきている	B	A		分掌は見通しをもって職員に発信をし、役割分担をして進められるように計画的に行う。又、企画書段階で細かく役割を決めておくようにする
6研修	(1)研修体制の充実	子どもと一緒に遊ぶ中で、子どもの興味関心に合った環境を提供するため、日々振り返りをする	公開保育の学びが積み重なってきて、子どもの実態を捉えどんな環境を提供すればいいのかを考えるようになった。関わりの中でも声をかけすぎず子どもが何を感じているのか保育者が日々意識して関わるようになってきた。1日の保育を振り返り、どうだったのかを考察し明日へつながるように意識している	B	B		保育者が意図をもって環境を用意した時、素材や提供のタイミングがどうだったのか、子どもの反応を見ながら自分の保育を振り返り、記録することで明日の保育につなげることができた。明日へのつながりが記入できなかった日もあったため、定着していくようにする
7教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	共有スペースの使い方を話し合い、年齢の遊びを保障する	会議で各クラスの遊びや場を伝え合いながら共有スペースの使い方を毎月検討していった。子どもの動線や素材等の意見交換をしたり、他クラスの遊びの内容を知ることができた。共通理解を図ることで各歳児の遊びが保障できたり、課題が出た時にすぐに改善点を話し合うことができた	A	A		クラスの様子の伝え合いではケース会議と重複する所があったので整理をする。構想図の伝え合いでは環境だけでなく保育内容に踏み込んでいけるようになってきたので、引き続き各自読み込んで質問等をし、学びが深められるようにする
8家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	自分が知り得た情報を確実に伝え、情報共有したり、支援方法を考えていく	保護者と話をしていく中で見えてくる悩みを丁寧に聞いたり、新たな情報について園全体で共通認識をもって関わっている	B	A		様々な家庭があることを理解し、支援が必要な家庭への配慮をクラス担任だけでなく園全体で考え、今後も丁寧に関わっていく
9近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	近隣園や近隣校と情報交換を行いながら交流する機会を作る	近隣校とは、校庭や松林を利用させて頂き児童と挨拶を交わしたり合同避難訓練を行う等、昨年度よりは減少したができる範囲で交流を行った。又、三保こども園とは移行に向けて園外保育等で交流をすることができた	B	A		来年度からは小学校と隣接ではなくなるがどのような関わりをしていくのかを検討していく
10地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域の様々な人との交流を通し、園だけではできない体験をする	数少ない機会で、短時間ではあったが折戸ナスの栽培や勤労感謝訪問等で地域の方と交流をもった。又、肥料の作り方や交響楽団等、外部の方とも関わり新しい発見、経験をすることができた	B	A		今後もできることを検討しながら体験を増やしていく